施工管理基準に基づく様式一覧表

以下の様式は参考様式として示すものであり、国土交通省様式を準用してもよい。

様式番号	品　　名
（　出　来　形　管　理　）	
2	出来形管理表（表紙）
2－1	出来形管理表・測定結果一覧表
2－2	測定結果一覧表
3	出来形管理表（図表）
4	度数表
16	鉄筋（ロックボルト工）挿入確認記録表
（　品　質　管　理　）	
5	品質管理表（表紙）
6	調査結果総括表
7－1	現場密度測定試験（現場における土の置換法による単位体積重量の測定）
7－2	現場密度測定試験　（突砂法）
8	道路の平板載荷試験(JIS A 1215)
9	プルーフローリング試験
10－1	現場における土の乾燥単位体積重量測定用紙
10－2	下層路盤用クラッシャーランの粒径加積曲線図
10－3	上層路盤用粒調砕石の粒径加積曲線図
11－1	アスファルト合材の管理試験
11－2	基準密度測定表
11－3	配合設計決定表
12	アスファルトの抽出試験（ソックレー法）
13	密度及び厚さの測定表
14	まだ固まらないコンクリートの洗い分析試験
（品質管理データーシート）	
15－1	$\bar{\chi}$－R管理データーシート(1)
15－2	$\bar{\chi}$－R管理データーシート(1)の2
15－3	$\bar{\chi}$－R管理管理図
15－4	x－Rs－Rm管理データーシート
15－5	x－Rs－Rm管理データーシート
15－6	x－Rs－Rm管理データーシート

様式　2

建設工事名

工 出 来 形 管 理 表

種 目

受注者名

様式-2

様式　２－１

様式-3

建設工事名

工出来形管理表

測定項目	記号	摘　　要

測　点　箇　所　図

受注者名

測 定 者

様式一覧表

工測定結果一覧表

測定項目	測　　点	(A) 設 計 値	(B) 実 測 値	ⒸC＝ⒷB－ⒶA 差	規 格 値	(B) 検査測定値	ⒺE＝ⒹD－ⒶA

様式　２－２

建設工事名

工 測 定 結 果 一 覧 表

受注者名

測　定　者

測定項目	測　　点	(A) 設 計 値	(B) 実 測 値	ⒸⒷ－Ⓐ 差	規 格 値	(B) 検査測定値	ⒺⒹ－Ⓐ

測定項目	測　　点	(A) 設 計 値	(B) 実 測 値	ⒸⒷ－Ⓐ 差	規 格 値	(B) 検査測定値	ⒺⒹ－Ⓐ

様式-4

施工管理基準

様式　3

建設工事名

工 出 来 形 管 理 図 表

受注者名

測 定 者

測点番号	
月　　日	
設計値との差（mm）	
記　　事	

様式-5

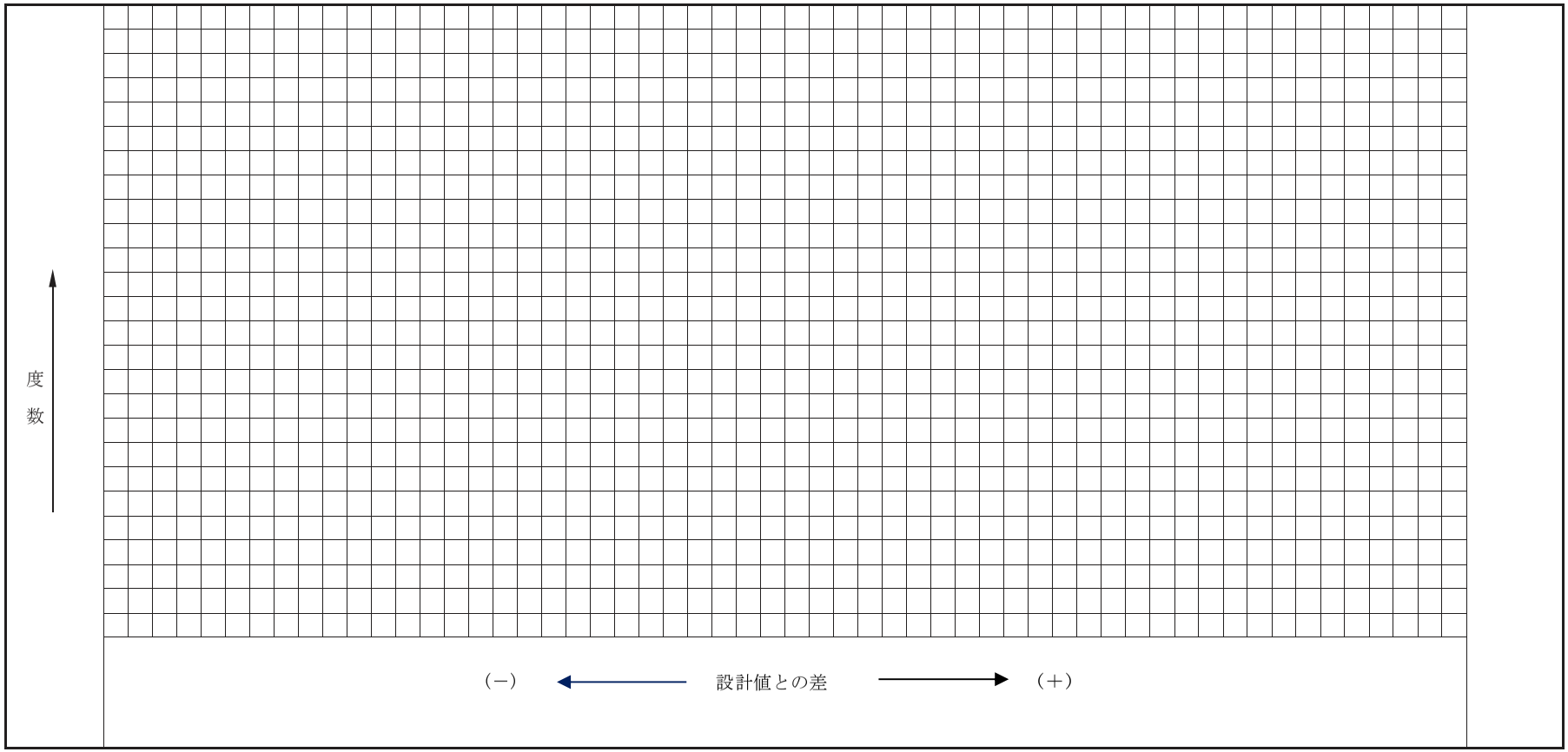
様式　4

工事名

工　度　数　表

受注者名

測 定 者



様式－6

施工管理基準

様式　5

建設工事名

工　品　質　管　理　表

種　目

受注者名

様式－7

施工管理基準

様式　6

調　査　結　果　総　括　表

調　査　名　　調査場所

試験名＼調査No.			
採取深度 cm			
統一分類記号			
名称			
粒度分析	礫分 %		
	砂分 %		
	細粒分 %		
	60 % 径 mm		
	30 % 径 mm		
	10 % 径 mm		
	フルイ通過率%	4.75 mm	
		2.36 mm	
		0.425 mm	
		0.075 mm	
	均等係数 Cu		
	曲率係数 Cc		
物理試験	含水比 %		
	液性限界 LL %		
	朔性限界 P %		
	朔性指数 PI		
変状土CBR	突固め回数 67 回		
		1	
		2	
		平均	
	CBR %		
	最大乾燥密度 g／cm³		
	最大乾燥密度の 95%		
	修正CBR試験	最適含水比%	
		42 回	
		92 回	
	修正CBR %		

様式　７－１

現場における土の置換法による単位体積重量の測定

調査名、目的		試験日程	年　月　日
測定箇所および測点番号		試験者	
土の最大粒径	mm	測定器番号	
測定器の体積	cm³	測定器の重量	g

Ⅰ　試験用砂の単位体積重量の検定

測定番号	1	2	3	4	5	試験用砂の平均単位体積重量 rst
ジャーとピクノメータートップに砂を満たした重量Wjs　g						
測定器全体の重量Wj　g						
満たした砂の重量（Wjs－Wj）　g						
ジャーとピクノメータートップとの体積Vj　cm³						
試験用砂の単位体積重量 rst　g／cm³						＝g／cm³

Ⅱ　ロト（ベースプレートを含む）を満たすに要する砂の重量検定

測定番号	1	2	3	4	5	ロトを満たすに要する砂の平均重量　Wjf
ジャーとピクノメータートップに砂を満たした重量Wjs　g						
ロトを満たした砂を除きジャーに残った砂の重量Wj2　g						
ロトを満たした砂の重量（Wj3－Wj2）－Wjf　g						＝　g

Ⅲ　試験孔からとり出した土の湿潤重量、含水比および乾燥重量の測定

試験孔の番号	湿潤土および乾燥土重量の測定		含水比の測定			
～1	容器（バケツ）の番号		試料箱No.	No.		No.
	（湿土＋バケツ）の重量　g		WW	DW	WW	DW
	容器（バケツ）の重量　g		DW	TW	DW	TW
	湿潤土の重量WwA　g		Ww	Ws	Ww	Ws
	乾燥土の重量Wv　g		w＝	％	w＝	％
			平均含水比　w＝		％	
～2	容器（バケツ）の番号		試料箱No.	No.		No.
	（湿土＋バケツ）の重量　g		WW	DW	WW	DW
	容器（バケツ）の重量　g		DW	TW	DW	TW
	湿潤土の重量WwA　g		Ww	Ws	Ww	Ws
	乾燥土の重量Wv　g		w＝	％	w＝	％
			平均含水比　w＝		％	
～3	容器（バケツ）の番号		試料箱No.	No.		No.
	（湿土＋バケツ）の重量　g		WW	DW	WW	DW
	容器（バケツ）の重量　g		DW	TW	DW	TW
	湿潤土の重量WwA　g		Ww	Ws	Ww	Ws
	乾燥土の重量Wv　g		w＝	％	w＝	％
			平均含水比　w＝		％	

試験孔番号	～1	～2	～3	（予備欄）
ジャーとピクノメータートップに砂を満たした重量Wj_1　g				
ジャーに残った砂の重量Wj_2　g				
試験孔およびロトに入った砂の重量（Wj_1－Wj_2）　g				
試験孔に入った砂の重量（Wj_2－Wj_3）－Wjf				
試験孔の体積　V cm³				

試験孔番号	～1	～2	～3	平均した砂の単位体積重量
土の湿潤単位体積重量　rt　g／cm³				rt＝　g／cm³
土の乾燥単位体積重量　rd　g／cm³				rd＝　g／cm³

（備考）

Ⅰ　砂の単位体積重量：$r\,st = \frac{(Wj3 - Wj)}{V}$

Ⅲ　乾燥土重量：$Wv = \frac{WwA \times 100}{100 + w}$

Ⅳ　試験孔の体積：$V = \frac{(Wj2 - Wj3) - Wjf}{r\,st}$

Ⅴ　土の湿潤単位体積重量：$r\,t = \frac{WwA}{V}$

土の乾燥単位体積重量：$r\,d = \frac{Wv}{V}$

様式　７－２

	現場密度測定試験（突砂法）	報 告 用 紙

建設工事名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　　試　験　日　　年　　月　　日
建設工事場所＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　　天　　候＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
工　　種＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　　試　験　者＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
使用材料名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

			測　定　番　号		
①	砂の単位体積重量	g／cm³			
掘り取った穴の容積	② 試験前の砂の重量	(g)			
	③ 試験後の砂の重量	(g)			
	④ ベースプレスト中の砂の重量	(g)			
	⑤ 穴につめた砂の重量（②－③－④）	(g)			
	⑥ 掘り取った穴の容積（⑤／①）	(cm³)			
湿潤密度	⑦ （湿潤試料＋容器）重量	(g)			
	⑧ 容　器　の　重　量	(g)			
	⑨ 湿潤試料重量（⑦－⑧）	(g)			
	⑩ 湿潤密度（⑨／⑥）	(g／cm³)			
含水比及び乾燥密度	⑪ （乾燥試料＋容器）重量	(g)			
	⑫ 容器の重量	(g)			
	⑬ 乾燥試料重量（⑪－⑫）	(g)			
	⑭ 全体含水量（⑨－⑬）	(g)			
	⑮ 全体含水比（⑭／⑬×100）	(%)			
	⑯ 乾　燥　密　度　　rd	(g／cm³)			
⑰	最 大 乾 燥 密 度　　rd	(g／cm³)			
⑱	締 固 め 度（⑯／⑰×100）	(%)			
⑲	締　固　め　度　平　均	(%)			

備　考

様式　8

道路の平板載荷試験　（JIS A 1215）

建設工事名

工 種 名

測定番号

受注者名

測定箇所

試験期日　　年　　月　　日

天候

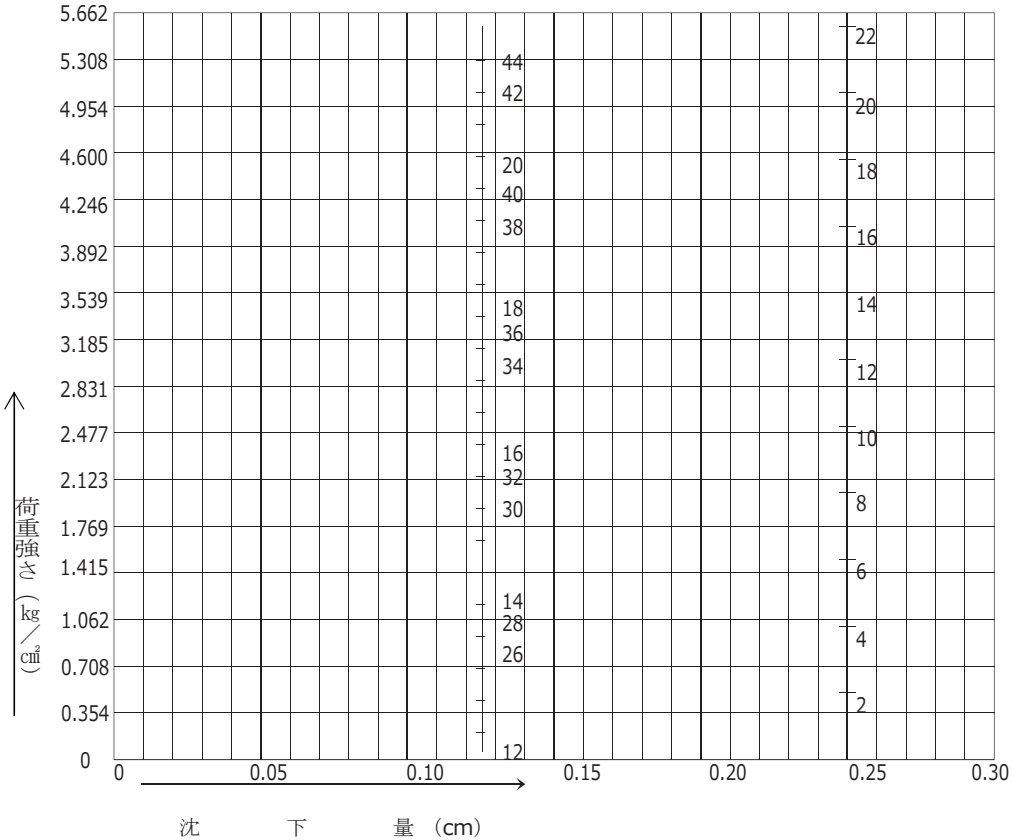
測 定 者

路面の状態

載荷盤直径　　載荷盤面積

荷　重		沈下量ダイヤルゲージの読み　1／100㎜			
全荷重	kg／	左	中	右	平均値
0.250	0.354				
0.500	0.708				
0.750	1.062				
1.000	1.415				
1.250	1.769				
1.500	2.123				
1.750	2.477				
2.000	2.831				
2.250	3.185				
2.500	3.539				
2.750	3.892				
3.000	4.246				

$$K_{30} = \frac{\text{荷重}\ (\text{kg}/\text{cm}^2)}{\text{沈下量}\ (\text{cm})} = \qquad K_{75} = \frac{K_{30}}{2.2} \quad \text{kg}/\text{cm}^2$$



様式　9

プルーフローリング試験

建設工事名　　受注者名

工　種　名　　測 定 者

項　　目	事　　項				備　　考
試験条件	天　　候		測定面の含水状況		
試験区間	No.		～No.		
載荷車	型　　式		接地圧		
載荷状況	予備載荷回数	回	本載荷速度	km／h	

試　験　結　果	
視察展開図	No.　No.　No.　No.　No.　No.　No. No.　No.　No.　No.　No.　No.　No.
視察記事	
異状箇所の処置	

様式　10－１

	現場における土の乾燥単位体積重量測定用紙	記 録 用 紙

測　定　者　　測定日年月日

調査名・目的　　使 用 材 料 名　　産

施 工 場 所

測定場所	工　種　区　分				
	測　定　番　号				
	転　圧　作　業　日				
砂の単位体積重量	①　キャリブレーション容器の重量　（g）				
	②　キャリブレーション容器に砂を満たした ときの重量　（g）				
	③　砂の単位体積重量（g/㎤）②－①／キャリブレーション容器				
掘り取った穴の容積	④　試験前（砂＋キャリブレーション容器）重量（g）				
	⑤　試験後（〃＋　〃　）〃　（g）				
	⑥　ベースプレート中の砂の重量　（g）				
	⑦　穴につめた砂の重量　（④－⑤－⑥）　（g）				
	⑧　掘り取った穴の容積　⑦／③　（㎤）				
湿潤密度	⑨　（湿潤試料＋容器）　重量　（g）				
	⑩　容器の重量　（g）				
	⑪　湿潤試料の重量　⑨－⑩　（g）				
	⑫　湿潤密度　⑪／⑧　γt（g／㎤）				
含水比及乾燥密度	⑬　（乾燥試料＋容器）　重量　（g）				
	⑭　容器の重量　（g）				
	⑮　乾燥試料重量　⑬－⑭　（g）				
	⑯　全体含水量　⑪－⑮　（g）				
	⑰　全体含水比　（⑯／⑮）　×100（%）				
	⑱　乾燥密度　⑮／⑧　（g／㎤）				
	⑲　最大乾燥密度　γd（g／㎤）				
	⑳　締固め度　⑱／⑲（%）				
	平　均　値				

様式　10－２

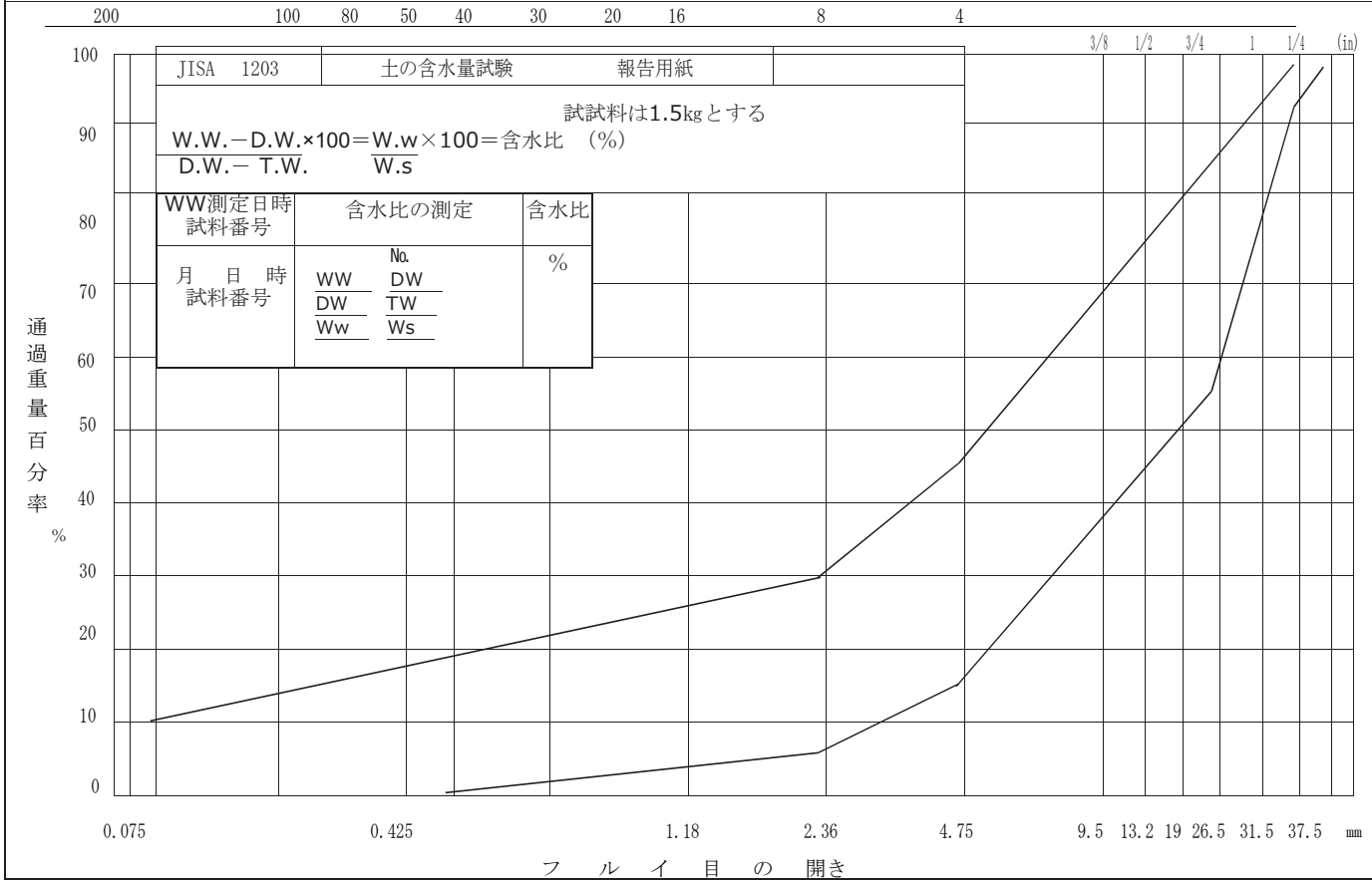
下層路盤用クラッシャーランの粒径加積曲線図

試験報告　用紙

試　料　番　号　　クラッシャーランの産地　　産　　試験年月日　　年　　月　　日

調査名・目的　　クラッシャーランの規格　　C－30　　作　成　者

試料採取場所　　ふるい分け試験番号データーシート　　No.　　※印の粒径について、ふるい分け試験を行なう。



フルイ目の呼び寸法 mm	通過重量百分率 (%)		粒度範囲
37.5			100
31.5			※ 95～100
26.5			
19.0			※ 55～85
13.2			
9.5			
4.75			15～45
2.36			※ 5～30
1.18			
0.425			0～18
0.075			※ 0～10

様式　10－３

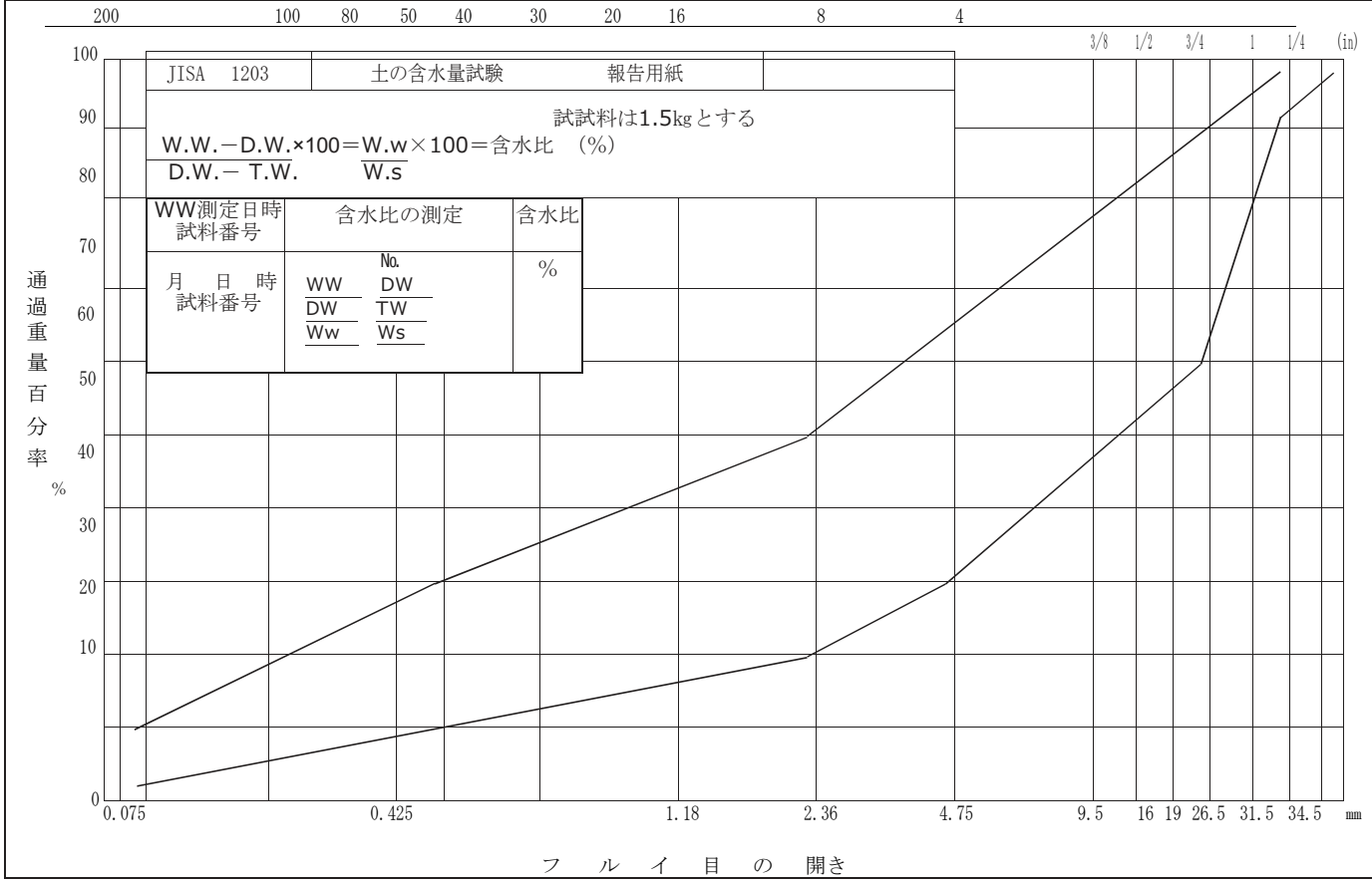
上層路盤用粒調砕石の粒径加積曲線図

試験報告　用紙

試　料　番　号　　粒調砕石の産地　　産　　試験年月日　　年　　月　　日

調査名・目的　　粒調砕石の規格　　M－30　　作　成　者

試料採取場所　　ふるい分け試験番号データーシート　　No.　　※印の粒径について、ふるい分け試験を行なう。



フルイ目の呼び寸法 mm	通過重量百分率（%）		粒度範囲
37.5			100
31.5			※ 95～100
26.5			
19.0			※ 60～90
13.2			
9.5			
4.75			30～65
2.36			※ 20～50
1.18			
0.425			10～30
0.075			※ 2～10

様式　11－1

アスファルト合材の管理試験

路線名		工事施工個所		試験者	

年　月　日	アスファルトケットル中の温度℃	骨 材 温 度	出荷時温度	転圧前合材温度℃	備　考

様式一覧表

様式　11－2

基　準　密　度　測　定　表

路線名		工事施工個所		試験者	

供試体番号	混合率%	成型月日	試験月日	厚さの測定		基準密度の測定				備考
				厚さ cm	平均 cm	A gr	B gr	C gr	A / B－C	
										6　個の平均値

A：供試体の乾燥重量（gr）

B：水中測定後供試体表面の水分をぬぐいとったときの空中重量（gr）

C：供試体の水中重量（gr）

様式　11－3

配　合　設　計　決　定　表

建設工事名:

建設工事所:

合 材 種 別:

安　　定　　度		kg
フ　ロ　ー　値		1／100cm
空　　隙　　率		%
飽　　和　　度		%
基 準 ア ス フ ァ ル ト 量		%
基　　準　　密　　度		g／cm^3
粒　　度	26.5m/m	%
	19.0〃	%
	13.2〃	%
	4.75〃	%
	2.36〃	%
	0.6〃	%
	0.3〃	%
	0.15〃	%
	0.075〃	%

様式　12

	アスファルトの抽出試験（ソックスレー法）	試験報告 用紙

建設工事名 ＿＿＿＿＿＿＿＿　　試年月日　　年　月　日

工事施工箇所 ＿＿＿＿＿＿＿＿　　測定者 ＿＿＿＿＿＿＿＿

混合物の種類 ＿＿＿＿＿＿＿＿　　ろ過装置の種類 ＿＿＿＿＿＿＿＿

受注者名 ＿＿＿＿＿＿＿＿　　溶剤の種類 ＿＿＿＿＿＿＿＿

試験測定番号		1	2	3
① 容器の重量(g)				
②（容器＋試料）重量(g)				
③ 試料重量(g)	②－①			
④ 円筒ろ紙の乾燥重量(g)				
⑤（抽出後の乾燥骨材＋容器）重量(g)				
⑥ 容器重量(g)				
⑦ 抽出後の骨材重量(g)	⑤－⑥			
⑧ 抽出後円筒ろ紙の乾燥重量(g)				
⑨ 円筒ろ紙に付着したフィラーの重量(g)	⑧－④			
⑩ 全抽出骨材重量(g)	⑦＋⑨			
⑪ アスファルト重量(g)	③－⑩			
⑫ アスファルト含有率(%)	⑪／③×100			
⑬ 平均値	基準値			
抽出骨材のフルイ分け試験（2.36㎜及び0.075㎜フルイ通過骨材重量百分率）				
⑭ 容器または0.075㎜フルイの重量 (g)				
⑮ 水洗い前(骨材＋容器または0.075㎜フルイ)重量 (g)	⑦＋⑭			
⑯ 水洗い後（〃）乾燥重量 (g)				
⑰ 0.075 ㎜フルイ通過骨材重量 (g)	⑮－⑯＋⑨			
⑱ 0.075 ㎜フルイ通過重量百分率 (%)	⑰／⑩×100			
⑲ 平均値	基準値			
⑳ 2.36 ㎜フルイ残留骨材重量 (g)				
㉑ 2.36 ㎜フルイ通過骨材重量 (g)	⑩－⑳			
㉒ 2.36 ㎜フルイ通過骨材重量百分率 (%)	⑳／⑩×100			
㉓ 平均値	基準値			

様式　13

密　度　及　び　厚　さ　の　測　定　表

建設工事名		工事施工個所		測定者	
受注者名		混合物種類		標準締固め密度	

供試体測点	混合率%	舗設月日時	試験月日時	厚さ、密度の測定						締固め度	備考
				厚さ cm	平均 cm	A	B	C	A/(B−C)		

A：供試体の乾燥空中重量（gr）
B：水中測定後供試体表面の水分ぬぐい取ったときの空中重量（gr）
C：供試体を常温の水中に約1分間浸した後の水中重量（gr）
注　標準締固め密度欄内の（　）書は、標準密度の94％密度

様式　14

JIS A 1112
まだ固まらないコンクリートの洗い分析試験

建設工事名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　受注者名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

工　種　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　測　定　者＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

項目 ＼ 測定番号				
試料の空中重量　(g)				
試料の水中重量　(g)				
試料の総体積　(g)				
砂の水中重量　(g)				
砂利の水中重量　(g)				
砂の比重　(g)				
砂利の比重　(g)				
試料含有量	セメント　(g)			
	砂　(g)			
	砂利　(g)			
	水　(g)			
単位量換算	セメント量			
	細骨材量			
	粗骨材量			
	単位水量			
(kg／m³)	水セメント比（％）			

〔注〕　砂：4.75㎜フルイを通過し、0.15㎜フルイに止まるもの

砂利：4.75㎜フルイに止まるもの

様式 15－1

$\bar{\chi}$－R管理データーシート(1)

名　　称		建設工事名		期　間	自	
品質・特性		出張所名			至	
測定単位		日標準量		受注者		
規格限界 上限値		試料 大きさ		現場代理人		
規格限界 下限値		試料 間隔		測定者		
設計基準値		作業機械名		測定者		

月日	組の番号	測定値 χ_1	χ_2	χ_3	χ_4	χ_5	計 $\Sigma\chi$	平均値 $\bar{\chi}$	範囲 R			
										$\bar{x}\pm A_2\cdot\bar{R}=$ $D_4\cdot\bar{R}=$		
	1											
	2											
	3										$\bar{x}=$	$\bar{R}=$
	4									平　均	$\bar{x}=$	
	5									累　計		
	小計									小　計		
	6									$\bar{x}\pm A_2\cdot\bar{R}=D$ $_4\cdot\bar{R}=$		=
	7											
	8											
	9									平　均	$\bar{x}=$	$\bar{R}=$
	10									累　計	$\bar{x}=$	
	小計									小　計		
	11									$\bar{x}\pm A_2\cdot\bar{R}=D$ $_4\cdot\bar{R}=$		=
	12											
	13											
	14											
	15											
	16											
	17											
	18											
	19									平　均	$\bar{x}=$	$\bar{R}=$
	20									累　計		
	小計									小　計		

記事

n	d_2	A_2	D_4
2	1.13	1.88	3.27
3	1.69	1.02	2.57
4	2.06	0.73	2.28
5	2.33	0.58	2.11

（注）1. 規格限界、設計基準値は設計図書に定められた値を記入する。
2. 管理限界線の引き直しは5－5－10－20－20方式による。

—・・・
——・・・・・・
————・・・・・・
——・・・・・・

（備考）－　管理限界の計算のための予備データーの区間
…上記の管理限界を適用する区間を示す。

3. 21組～40組までは、別に新しいデータシートに記入する。以下20組ごとに同様とする。

様式 15－2

$\bar{\chi}$－R管理データーシート(1)の2

月 日	組の番号	測定値 χ_1	χ_2	χ_3	χ_4	χ_5	計 $\Sigma\chi$	平均値 $\bar{\chi}$	範囲 R			
										x±A_2・R＝ D		＝
										$_4$・R＝		
										平 均	$\bar{x}$＝	$\bar{R}$＝
										累 計		
	小計									小 計		
										x±A_2・R＝ D		＝
										$_4$・R＝		
										平 均	$\bar{x}$＝	$\bar{R}$＝
										累 計		
	小計									小 計		

記事	n	d_2	A_2	D_4
	2	1.13	1.88	3.27
	3	1.69	1.02	2.57
	4	2.06	0.73	2.28
	5	2.33	0.58	2.11

（注） 1． 管理限界線の引き直しは５－５－10－20－20方式による。

—・・・・・

——・・・・・

————・・・・・

——・・・・・

（備考） ― 管理限界の計算のための予備データーの区間

… 上記の管理限界を適用する区間を示す。

2．以下、最近の20組（平均値χを１箇とする）のデーターを用い、次の20箇に対する管理限界とする。

様式 15－3

$\bar{\chi}$ － R 管 理 図（1）

設計基準値		建設工事名			工事
名称		日標準量			
品質特性		規格限界	上限値		
測定単位			下限値		
測定方法		試料	大きさ		
作業機械名			間隔		

測定者

x	
Rs	
Rm	
組の番号	
記事及び監督員、主任監督員承認印	

（注）　１．管理図は、別紙 －R管理、データーシート　から記入する。
　　２．記事欄には、異常原因、その他必要事項を記入する。

様式　15－４

x－Rs－Rm管理データーシート

名　　称		建設工事名				受注者名	
品質・特性		出張所名					
測定単位		日標準量				測定者	
規格限界	上限値	試料	大きさ				
	下限値		間　隔			測定者	
設計基準値		作業機械名					

月日	試験番号	測定値 a	b	c	d	計 Σ	平均値 $\bar{x}$	移動範囲 Rs	測定値内の範囲 Rm	$\bar{x}\pm E_2\cdot\bar{R}s=$ $D_4\cdot Rs=$ $D_4\cdot\bar{R}m=$			
	1												
	2												
	3										x	Rs	Rm
	4									平　均	$\bar{x}=$	$\bar{R}s=$	$\bar{R}m=$
	5									累　計			
	小計									小　計			
	6									$\bar{x}\pm E_2\cdot\bar{R}s=$			
	7									$D_4\cdot\bar{R}s=$	$D_4\cdot\bar{R}m=$		
	8									平　均	$\bar{x}=$	s＝	m＝
	小計									累　計			
										小　計			
	9									$\bar{x}\pm E_2\cdot\bar{R}s=$			
	10									$D_4\cdot Rs=$			
	11									$D_4\cdot\bar{R}m=$			
	12									平　均	$\bar{x}=$	$\bar{R}s=$	$\bar{R}m=$
	13									累　計			
	小計									小　計			
	14												
	15												
	16									$\bar{x}\pm E_2\cdot\bar{R}s=$			
	17									$D_4\cdot\bar{R}s=$			
	18									$D_4\cdot\bar{R}m=$			
	19									平　均	$\bar{x}=$	$\bar{R}s=$	$\bar{R}m=$
	20									累　計			
	小計									小　計			

記事	n	d_2	D_4	E_2
	2	1.13	3.27	2.66
	3	1.69	2.57	1.77
	4	2.06	2.28	1.46
	5	2.33	2.11	1.29

（注）　１．規格限界、設計基準値は設計図書に定められた値を記入する。

２．管理限界線の引き直しは５－３－５－７－10－10－10方式による。

—・・・・・

——・・・・・

————・・・・・

————・・・・・

————

（備考）－　管理限界の計算のための予備データーの区間

…上記の管理限界を適用する区間を示す。

３．以下、最近の20組（平均値χを１箇とする）のデーターを用い、次の10箇に対する管理限界とする。

様式 15－５

x－Rs－Rm管理データーシート

月 日	試験番号	測定値 a	b	c	d	Σ	平均値 $\bar{x}$	移動範囲 Rs	測定値内の範囲 Rm				
										$\bar{x}\pm E_2\cdot\bar{R}s=$			
										$D_4\cdot Rs=$			
										$D_4\cdot\bar{R}m=$			
											x	Rs	Rm
										平 均	$\bar{x}=$	$\bar{R}s=$	$\bar{R}m=$
										累 計			
	小計									小 計			
										$\bar{x}\pm E_2\cdot\bar{R}s=$			
										$D_4\cdot Rs=$			
										$D_4\cdot\bar{R}m=$			
										平 均	$\bar{x}=$	$\bar{R}s=$	$\bar{R}m=$
										累 計			
	小計									小 計			
										$\bar{x}\pm E_2\cdot\bar{R}s=$			
										$D_4\cdot Rs=$			
										$D_4\cdot\bar{R}m=$			
										平 均	$\bar{x}=$	$\bar{R}s=$	$\bar{R}m=$
										累 計			
	小計									小 計			
										$\bar{x}\pm E_2\cdot\bar{R}s=$			
										$D_4\cdot Rs=$			
										$D_4\cdot\bar{R}m=$			
										平 均	$\bar{x}=$	$\bar{R}s=$	$\bar{R}m=$
										累 計			
	小計									小 計			
記事										n	d_2	D_4	E_2
										2	1.13	3.27	2.66
										3	1.69	2.57	1.77
										4	2.06	2.28	1.46
										5	2.33	2.11	1.29

（注） １．管理限界線の引き直しは５－３－５－７－10－10－10方式による。

—·····

——·····

————·····

————·····

——·····

——·····

（備考）－ 管理限界の計算のための予備データーの区間を示す。

…上記の管理限界を適用する区間を示す。

２．以下、最近の20組（平均値χを１箇とする）のデーターを用い、次の10箇に対する管理限界とする。

様式　15－6

x － Rs － Rm 管 理 図

設計基準値		建設工事名			工事
名称		日標準量			
品質特性		規格限界	上限値		
測定単位			下限値		
測定方法		試料	大きさ		
作業機械名			間隔		

測　定　者

x	
Rs	
Rm	
組の番号	
記事及び監督員、主任監督員承認印	

（注）　1．管理図は、別紙 x－Rs－Rm 管理データーシートから記入する。
　　2．記事欄には、異常原因、その他必要事項を記入する。

（様式16）

鉄筋（ロックボルト工）挿入確認記録表

工 事 名 ：

受 注 者 名：

施工箇所番号	施工確認日	施工業者名（下請け施工の場合は下請人名を記入）	購入した鉄筋（ロックボルト）		確認者		備考
			長さ	径			
	令和●年●月●日	●●●（株）			主任技術者	●● ●●	
	令和●年●月●日	（有）●●組			現場代理人	●● ●●	
	令和●年●月●日	●●●（株）			主任技術者	●● ●●	
	令和●年●月●日	（有）●●組			現場代理人	●● ●●	

（※注意事項）

1. この記録表は、鉄筋挿入工（ロックボルト工）の削孔穴への挿入に立会した場合に、記録するものとする。
2. 削孔穴へ挿入する前には、鉄筋（ロックボルト）の長さ・径を確認し、その測定値をこの表に記録する。